

# 私たちの活動を紹介します

米子市

## 音訳ボランティア ザ・スピリッツ

寄稿：中川 容子さん

＜連絡先＞社会福祉法人鳥取県ライトハウス  
点字図書館  
TEL (0859) 22-7655

＜設立年＞平成4年

＜会員＞

主婦や、退職した医療関係者・アナウンサー業務経験者など、36名



25周年記念にロゴマーク入りのジャケットを制作し、総会では全員がジャケットを着用しました。

### すみやかに、正確に

私たちは音声を通して視覚障がい者の方々に情報を提供しています。毎月発行のとっとり県政だより、広報よなご、広報北栄、市報さかいみなと、広報ゆりはまなどの広報誌や年4回発行の議会だより等の音訳、テープ・CDの録音確認、郵送作業等を行っています。すみやかに、正確に情報をお伝えすることをモットーに、土・日・祝日はもちろんのこと、年末年始にも活動を続けています。

活動する上で大切にしていることは、音訳する際に疲れない読み方をすることです。そのため、発音練習や発声練習を欠かさず行うなど、日々研鑽に励んでいます。

### 幸せを運ぶ声の仕事

広報誌等の音訳も行いますが、実は音訳図書（録音図書）の制作が活動の第一目的です。鳥取県点字図書館は全国的には小さな図書館ですが政治評論や古典、長篇などの音訳を制作することが多々あります。そして、北海道や名古屋、福岡などの利用者から、点字でお礼が届いたときは、今までの苦勞が吹き飛びました。

また、日本視覚障害者団体連合の会長 竹下義樹さんに「皆さまの声で私たちは幸せをいただいています」と言っていたいたり、今年音訳した「資本主義と闘った男—宇沢弘文と経済学の世界」の著者から「650ページもある本をよくぞ音訳していただきました」と連絡が届いた際には、私たちのボランティアは様々なところに幸せを運んでいるのだと、これからの励みにもなりました。

活動拠点

- 社会福祉法人鳥取県ライトハウス
- 米子市社会福祉協議会（ふれあいの里）

### 成長を知る幸せ

2年もかかって音訳した本の制作が完了したときは、喜びとともに、私たち自身が成長していると実感しました。書籍を読みすすめ、音声化することだけでも楽しいことなのに、その上喜んでいただいていると知ったときは、音訳ボランティアほど素晴らしいボランティアはないとさえ思いました。

### 今後の目標

音訳ボランティアは使命感、忍耐力、責任感が必要で、生半可な気持ちで続けることはできません。そのため、10年、20年と続けてボランティアをしてくださる人がどれほどありがたいことかと思えます。一方で、ボランティアの高齢化は否めないため、若い人に少しでも関心を持っていただき、どんどん参加したくさんの本を音訳していただきたいと思っています。ボランティアをしたいという強い思いがあれば、なんとか時間は作れるものです。

合成による音訳も増えていますが、やはり人間の温もりのある声が求められています。できるだけすみやかに録音図書を制作することが今以上に求められています。



視覚障がい者の方との交流も大切にしており、2019年3月には、妻木晩田ウォーク&名和公園でお花見をしました。